

BSL4 実験室内で実施される業務内容について

高度封じ込め施設長 西條 政幸

先日、高度封じ込め施設運営委員会において下記の業務を実施することの承認が得られましたので報告します。

1. 業務課題名

重症熱性血小板減少症候群の治療におけるファビピラビルと抗ウイルス抗体の併用効果

2. 業務実施責任者

ウイルス第一部長 西條政幸

3. 業務実施背景

小動物で抗ウイルス薬ファビピラビルに重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に対する治療効果が認められることが報告されています。また、SFTS ウイルスに対する抗体製剤による治療も効果的であることが霊長類で確かめられました。日本、韓国、中国で流行している SFTS に対する治療法開発が急務の課題です。

4. 業務実施目的

SFTS の致命率は 10%-30% と高く、現在有効な治療法は存在しません。動物モデルではファビピラビル(抗インフルエンザ薬)および抗ウイルス抗体がそれぞれ単独で治療効果を示す可能性が示唆される結果が報告されています。ファビピラビルと抗 SFTS ウイルス抗体製剤の併用効果を調べ、より優れた SFTS の治療方法を見出すことを目的としています。

5. 高度封じ込め施設において当該業務を行うことの必要性

国立感染症研究所(感染研)病原体等安全管理規程では SFTS ウイルスの取り扱いは BSL3 で行うとされていますが、感染研内で霊長類(サル)を用いた業務を実施できる BSL3 施設はありません。そのため、高度封じ込め施設で当該業務を実施したいと考えています。

6. 実施期間

平成 30 年 3 月下旬から平成 31 年 3 月末を予定しています。

7. その他

本業務においては、霊長類が使用される予定です。また、本業務は BSL4 実験室安全操作指針に従い、安全性に配慮して実施されます。